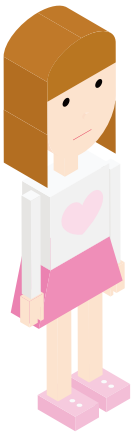

10

応 般

ICT が可能にした未来の大学

山本秀樹（ミネルバ大学日本連絡事務所）

設立秘話

「もし今の時代に，アイビーリーグのようなエリート大学をゼロから創るとしたら，どんな学校にしたいか？」

Minerva Schools at KGI（以下ミネルバ大学）の創立者 Ben Nelson がこの問いを実行するまでには 20 数年の月日を要した．ペンシルバニア大学ウォートン校で「学び方を学ぶ」授業を設計し，学生団体の代表として，カリキュラム改革を推進していた Ben でも，理想とする大学をゼロから創ることは不可能に思えた．結局，一年生の終わりに代表を退き，優等生として卒業した以外に特に目立った活動はせずに実業界に入った．

転機が訪れたのは，経営していたオンライン写真印刷会社がヒューレット・パッカード社に買収され，十分な経済的な成功を収めたときだった．「経済的利潤の追求よりも社会を変えるプロジェクトがしたかった」「IT ビジネスでの経験は，資産を持たない自分でも何か新しい価値を創り出せる，テクノロジーを活用すれば，従来できなかった教育を実現できる，という自信を与えてくれた．頭の中で勝算を考え，これはやれると確信した」と Ben は当時の想いを語る．

Ben の構想は世界を変えるアイディアを好む米国でも，当初はなかなか理解されなかったが，大学が抱える課題（高騰する学費，時代遅れのカリキュラムや入試制度，実社会で求められるスキルとのギャップなど）が顕在化してきた背景もあり，次第にアイビーリーグを始めとするトップ校の教職者たちの支持を集め，Lawrence Summers 氏（当時ハーバード大学学長）を設立準備委員会の代表とするプロジェクトが 2012 年にスタートした．

“新しさ”より“あるべき姿”へ

ミネルバ大学には「講義形式の授業」が存在しない．授業は，すべて Active Learning Forum（以下 ALF）と呼ばれるこのオンライン・プラットフォームを使用した 18 人以下のセミナ形式の反転授業で実施される．ALF は，生徒と教師の事前課題・授業準備作業，授業中の全発言，成果物（グループ作業の内容など）を記録し，分析・評価することができる．そして，各生徒の評価結果は授業の終了後，最短 3 時間程度で各人にフィードバックされるだけでなく，教師間でも共有される．従来の教室型授業では実現できなかった，事実に基づいた高頻度のフィードバックや各生徒の習熟度の教科を跨いだ教員間での共有ができるようになった（図 -1）．

また，ALF における技能習熟度の設計・定義を担当した Stephen Kosslyn 教授は，ハーバード大学で 30 年以上，心理学，脳科学，認知科学の分野を研究，同大学の社会科学部長として勤務し，「学習の科学」を語る上で，最高クラスの人物といっても過言ではない．Kosslyn 教授の設計した技能評価はクリティカル思考，クリエイティブ思考，効果的なコミュニケーション力を「Habit of Mind : 脳の使用法」と「Foundational Concept : 基盤知識」の 2 つの大分類，約 115 項目の能力に整理して ALF 上で生徒の能力評価に使用されて

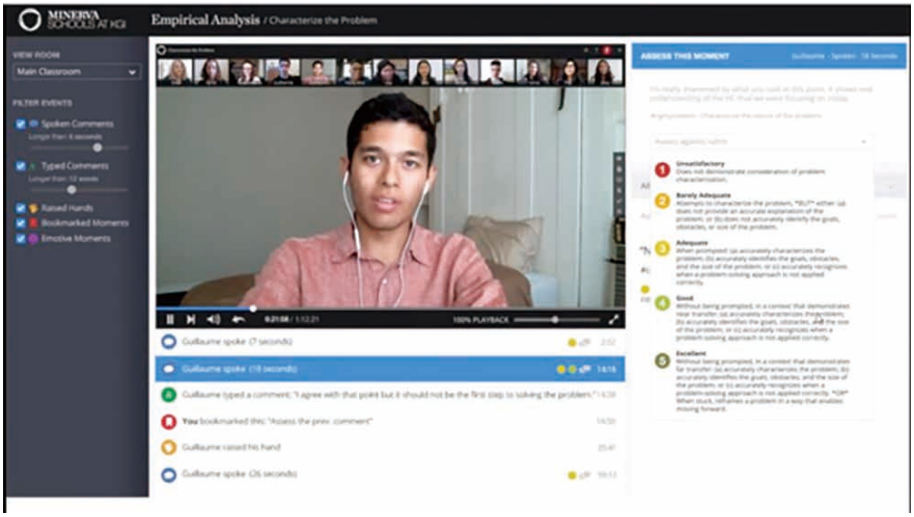

図 -1　Active Learning Forum のフィードバック

いる．日本でも，「アクティブ・ラーニング」という言葉はよく聞かれるようになったが，学習効果を定量的に測定する方法論や具体的な事例はいまだ整備されておらず，ミネルバ大学のデータが蓄積され，信頼性が担保されれば，多くの大学にとって良いベンチマークとなるだろう．

そして，ALF によって実現したメリットはほかにもある．既存大学では実現に膨大な費用が必要な，「多様性・異文化共生学習」を低コストで提供することを可能にした．

ミネルバ大学は，全生徒が世界の 7 つの都市を共同生活しながら移動し，滞在する各都市で，現地の企業・行政・NPO などとのプロジェクト学習を経験できる世界で唯一の大学である．自前のキャンパスも教室も持つ必要がないため，既存大学の運営を圧迫しているキャンパスや娯楽施設への投資が不要で，既存の米国トップエリート校の学費の約 1/4 以下の学費で提供できるようになった．

高等教育の再創造

ミネルバ大学は，「すべての才能ある学生に，これからの社会で活躍できる実践的な知恵を，適切な学費で実現する」ことを目指している．ミネルバ大学は現在，わずか 300 名程度の在籍生しかおらず，単独で高等教育改革にどの程度の影響力を与えられるのか疑問に感じている方も多いだろう．ミネルバ大学には，年間 16,000 名の受験者がおり，現役生の中にはケンブリッジ大学やスタンフォード大学を辞退して入学した者もいる．在籍者の 1/5 が欧米トップ校からの再受験者で，メディアから高評価を受けている．昨今のスタンフォード大学の所得層に応じた学費免除制度の開始や MIT（マサチューセッツ工科大学）が一部の学部にオンライン教育による安価なコースを設置し，学位を認定する試みを始めたことは，ミネルバ大学の影響があったと思われる．

また，ミネルバ大学は自校の経済的成功よりも，他大学がさまざまな対抗手段をとることで学生にとって望ましい競争環境が生まれることが重要であると考えている．ミネルバ大学はいたずらに規模拡大を目指していないし，カリキュラム改革を伴わない技術ライセンスの付与には応じていない．これらは目指している趣旨を実現するための行動規範だからである．

ミネルバ大学の日本での認知度はまだ低いが，今後，さまざまな大学，企業，研究機関から注目していただくことで，これらの組織が世界水準の競争力を構築するためのヒントとなれば幸いである．

参考文献
1）ミネルバ大学公式サイト，https://www.minerva.kgi.edu/
2）ミネルバ大学公式 Facebook ページ，https://www.facebook.com/MinervaSchoolsatKGI
3）ミネルバ大学公式 YouTube チャンネル，https://www.youtube.com/user/minerva

（2016 年 10 月 23 日受付）

山本秀樹 ■ hideki@minerva.kgi.edu
東レ，ブーズ・アンド・カンパニー，3M Japan を経て現職（ミネルバ大学日本連絡事務所代表）．慶應義塾大学経済学部卒業，ケンブリッジ大学経営管理学修士（MBA）．